熊谷彰矩名誉教授の記念特集号刊行に当たって

経済学会長　平　澤　典　男

この度，青山学院大学経済学会は，熊谷彰矩名誉教授のご退職を記念して『青山経済論集』第58巻第4号を，熊谷彰矩名誉教授記念号として刊行することといたしました。

熊谷彰矩名誉教授は，1962年に慶應義塾大学を卒業後，民間銀行での経験を経て，1971年に財団法人日本システム開発研究所主任研究員として研究活動を開始されました。1978年に青山学院大学女子短期大学助教授(教養学科所属)として青山学院に迎えられて後，1986年には青山学院大学経済学部に助教授として移られ，1988年に同教授に昇任，実に28年にわたり青山学院とともに歩んでこられました。昨年3月をもって，定年退職なされましたが，この間の本学における教育，研究，大学行政への多大なる貢献により，2006年6月青山学院大学名誉教授の称号が授与されました。ここに名誉教授就任を心からお喜び申し上げるとともに，永きにわたる学会活動に衷心より謝意を表すものであります。

大学行政においては，学生部副部長，学生部長，経済学部第二部学科主任などを歴任，とりわけ1997年から二期にわたって勤められた経済学部長および大学院研究科長の職にあっては，青山学院大学ならびに経済学部の発展に多大なるご功績を残されてきました。

社会の変化・発展に即応した情報教育に早くから着目し，カリキュラムのなかに情報関連科目を取り入れ，推奨パソコン制度を導入すると同時に青山キャンパスにはメディアセンターを設立，厚木キャンパスにはインターネット・カフェを設置されました。その間の経緯を周囲にいたものに伺うにつけ，熊谷名誉教授の確固たる指導力と揺るがぬ信念，学生を思う情熱のすばらしさにはた

だただ頭が下がります。

ゼミナール指導においては，外に目を向けることの大切さを説き続け，他大学ゼミとの交流の機会を提供するなど，親身あふれる指導を熱心に続けられてきました。中田横浜市長が熊谷名誉教授のこうした指導のもとで生まれたことも，われわれには大いに頷けることであります。

研究分野では，早くから環境問題に着目したお一人であり，同分野での熊谷名誉教授の多くの論文は一貫して経済学の手法でなんとかこれをコントロールできないだろうかという視点で貫かれております。排出権取引問題，市場インセンティブによる環境のコントロール，リサイクル・システムの設計といった研究分野は昨今ますます重要性を増し，熊谷名誉教授の着眼点の鋭さは後を追うものを大いに助けてくれております。

われわれにとっていまだに強い印象を残しているのは，昨年1月の最終講義であります。静かに語る口調に引き込まれながら，みごとに構成された1時間半の後にわれわれの心に残ったのは研究者としての姿勢はいかにあるべきかという点でした。真理を追究すべき学究の徒にあっても時とともにその主張が変わること，時には資料さえ変わり，ものごとを素直にとらえることが如何に難しいか。多くのなかから正しい主張を見つけることが如何に困難であるか。この時間を共有したもの全てが，熊谷名誉教授の学問に向ける静かでかつ熱い心みなぎる名講義に名残惜しさを禁じ得なかったことと思われます。

いま，経済学部は大学ともども新しい体制にその姿を変えようとしています。すなわち，大学にあっては新設学部が，経済学部にあっては新学科がその誕生を待っています。こうした時期にこそ熊谷名誉教授のような冷静さとぶれない軸が求められると考えるに付け，熊谷名誉教授のご退職は残念でなりません。

しかしながら，この度名誉教授の称号をお受けになられ，今後とも経済学部のためにご指導いただけることとなりましたことは我々経済学部教員にとってまことに心強く，改めて学部へのご貢献に感謝するとともに，今後の熊谷名誉教授の益々のご活躍とご健勝を心からお祈りする次第です。